

生野義挙碑

(生野町口銀谷)

文久3年10月の生野義挙の事跡を後世に伝えるため、昭和15年(1940)、生野代官所跡地に建立されました。

足跡を訪ねて

朝来市内を中心に周辺市町には、生野義挙に関連する史跡が残されています。

養父明神普賢寺(養父市養父市場)

養父市養父神社別当所、現社務所。文久3年9月25日に美玉三平(元薩摩藩士)、本多素行(元近江藩士の僧)が中心となり養父神社で第一回の農兵取立の会合を開きました。但馬のおもだった庄屋・豪商等が集まりました。



延応寺(生野町口銀谷)

文久3年10月11日、午後2時ごろ、澤宣嘉以下29人は延応寺に到着。その後午後8時ごろ、猪野々の丹後屋太田次郎左衛門方へ移り、翌13日に代官所を襲いました。本多素行と延応寺住職は平素から懇意の間柄で、この寺を利用したと考えられています。

西念寺(山口)

文久3年10月13日午後2時ごろ、南八郎ら一行13人は生野代官所を出て、山口村の西念寺に入りました。



山口護国神社(山口)

山口護国神社は、生野義挙で敗れた地で自刃した志士たちがまつられています。生野義挙の生き残りとして、その後活躍した進藤俊三郎(原六郎)が建立のため多額の寄付をし、完成式にも出席しています。



妙見堂(山口)

南八郎らは山口村庄屋に人足のかり集めを命じ、午後4時ごろ岩州山(妙見山)中腹の険しい崖にある妙見堂に布陣して出石・豊岡藩の出兵に備えました。



山伏岩(山口・山口護国神社)

文久3年10月14日、午後4時ごろ、南八郎ら13人は生野入りを決行するべく妙見堂を下山。周囲から銃撃され「もはやこれまで」と、通称山伏岩の後ろの岩陰で自刃し果てました。

慶応4年(明治元年)正月、山伏岩で自刃した志士13人と中島・美玉・中條(右京・元出石藩士)・長曾我部(太七郎・阿波国)・小河(吉三郎・水戸藩士)の18人の首級を山口村の村民の懇願によって、山伏岩の下に葬りました。ただ中島太郎兵衛の首は遺族によって先祖の眠る墓地に葬られました。「正義十七士之碑」とあるのがその遺体を葬った場所です。

小河吉三郎自刃の地

(山内)

小河吉三郎(大川藤蔵)は、本陣解散の報を聞き、同じ水戸藩士である川又佐一郎と共に妙見堂を下山、丹波路に入ろうとしますが、農民達に追われサケジ谷の岩の上で自刃。川又は農民達に捕まり出石藩に引き渡されました。サケジ谷はこの場所から1キロほど先に行った山中にあります。



中條右京・長曾我部太七郎終焉の地

(神崎郡神河町猪篠)

文久3年10月14日、2人は生野の剣術師範であった伊藤竜太郎の説得に応じ、妙見堂を下山しましたが、姫路方面に行く途中、猪篠村(現神河町猪篠)にて農民達の鉄砲によって狙撃され死亡します。



美玉三平・中島太郎兵衛終焉の地
(宍粟市山崎町木ノ谷)
美玉三平と、中島太郎兵衛・黒田與市郎兄弟は、生野から逃れこの地にたどりつくも、銃を持った農民に追いかまれ、美玉は射殺され、けがを負った太郎兵衛は弟・與市郎の介錯によって果てました。與市郎は自ら縄につき、京都の六角獄舎へ送られ後に獄死します。



中島太郎兵衛・黒田與市郎の墓

(和田山町高田)

養父郡高田の豪農であった中島太郎兵衛・黒田與市郎兄弟の墓は、和田山町高田、国道9号線沿いの生家の近くに建てられています。

平野國臣・横田友次郎捕縛の地

(養父市八鹿町上網場)

平野國臣(元福岡藩士)、横田友次郎(鳥取藩士)は、文久3年11月13日夜、生野を脱出し城崎へ向かいますが、豊岡藩兵によって捕縛されました。後に京都の六角獄舎へ送られましたが、禁門の変によって発生した火災に伴い他の囚人らとともに斬首されました。



多田弥太郎顕彰碑

(豊岡市出石町福見・浅間峠)

生野から逃れた多田弥太郎(出石藩士)は、澤宣嘉と行動をともにするも遅れをとり大坂へ落ち延びます。その後、城崎へ潜入したところを出石藩役人に捕縛され、出石へ護送途中に刺殺されました。